



## Botswana Medical Information



2018年 10月

### 新聞報道抜粋

#### ● Kanye 地域の下痢症

カニエ地区ヘルスマネジメントチームナースによると、国内でアウトブレイク中の下痢症に関して、カニエ地区では、36週（9月3日から9日）まで下痢の報告はなかったが、以降9月23日から26日の間で26人の報告があり、合計90人、死者はいない。

国内では3000人の発生があり、死亡者数は17人となっている。

（3日デイリーニュース紙）

#### ● Palapye の下痢症のアウトブレイクにより、子供一人が死亡

Palapye 地区は5歳以下の子供が1名死亡したことを確認した。同地区では、現時点で1389例が発症した。アウトブレイクの制圧のためのチームが保健省より派遣されており、集会やショッピングモール、バス乗り場等でのコミュニティーアウトリーチや、下痢症に関する講話が行われている。

（10日デイリーニュース紙）

#### ● ナミ地区でマラリア対策が始まる

ナミ地区の保健チームはマラリア対策として、室内残留性散布（IRS）を3地区で開始するが、Maun と Phuduhudu では防蚊ネットが配られる。

コミュニティーの協力を得るのが困難であり、IRS 実施にはチャレンジが伴うため、地方の言葉を使いコミュニケーションを図る。

2017年は降雨量が多く、オカバンゴ地区が大きな影響を受け、

ほとんどのケースはオカバンゴや南アフリカ、ザンビア、ナミビアなどの近隣国からの輸入症例であり、1名死者がでた。今年は輸入症例はザンビア、モザンビーク、ナミビアから、地元からは、Mababe, Khwai, Maun から報告され、死者は報告されていない。

（11日 デイリーニュース）

#### ● 乳がん早期発見の啓蒙

ボツワナでは国内の癌発生数の10%、女性の癌の16%、女性の癌関連死亡の7%をしめる。（26日デイリーニュース）

●男性が HIV の検査を受けることに関して

ボツワナの男性は女性と比較して、HIV の検査を受けることや、治療を受けることに対して抵抗がある。Treat all champions project のパネリスト達からの意見は、以下のとおり。男性は、HIV 検査で女性パートナーが陰性であれば、自分も陰性だと考える。

プライド、プライバシー、経済的な問題により医療機関を受診しない。

男性は HIV 検査を受けることを恐れており、また HIV テストセンターは男性が受診できるように、夜開くべきであり、男性に向けた HIV キャンペーンが必要と Treat all champions 参加者の一人は、述べた。「月明かりでのテスト」として、男性が飲み物、バライをしながら HIV について語ることや、日曜のサッカートーナメントで、チームのサッカーファンの中で多く検査したチームが勝ちということも行っている。男性が地域の医療施設より、Have It All キャンペーンに集まったのは、エイズの検査から治療まですべてのサービスが一貫して受けられるからだ。

(26 日メヒ紙)

●国連合同エイズ計画 (UNAIDS) 事務局長とマシシ大統領との対話

ジュネーブにおいて行われた、UNAIDS における事務局長との会話において、大統領は以下の様に述べた。

HIV/AIDS に関して、ボツワナは 90-90-90 の達成に順調に進んでいる。2016 年 6 月に前大統領が treat all 戦略を開始し、今年の 6 月には、HIV 陽性者の 88%が自分の HIV 感染状況を知り、84.4%が治療を受け、94%の人がウイルス量が抑制された状態にある。

さらに、母子感染予防は 96%となっており、母子の垂直感染率は 1.4%。

このような進歩を見せているが、最近の予想によると新規感染率が 13208 人 (2010 年) から 13799 人 (2017 年) と 4%増加している。

政府の HIV/AIDS に対するコミットメントは変わらず、HIV/AIDS の 2018-2023 年第 3 次国家戦略骨子では、HIV/AIDS の 1 次予防を中心としている。また第 5 次 AIDS インパクトサーベイ (BAISV) は結核の感染率も含める調査となっている。これは財政的にも技術的にも複雑であり、専門家、特殊な機器、情報技術を必要としており、パートナーからのサポートをお願いしたい。

(29 日デイリーニュース)

文責: 高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)